

「令和元年度 全国社会就労センター総合研究大会(徳島大会)」

〔分科会 I の詳細〕

✓ **分科会 I (計6分科会)**

⇒ 実践報告やグループ討議(6～8人程度のグループを編成)等を実施する予定です。討議テーマ等については、以下のとおりです。

第1分科会:生保・社会事業部会

〔テーマ〕:「生保・社会事業授産施設の利用者像～多様な利用者の利益の最優先～」

〔ポイント〕:

- 生活保護受給、基準該当就労継続支援B型利用、みなし保護、その他の利用(緊急一時避難的な受け入れ、雇用契約締結等)等、多種多様な生保・社会事業授産施設の利用者の現状について共有を図る。
- ひきこもり、社会とのつながりが希薄、社会になじめない、差別やDVを受けた、外国人労働者等、多種多様な利用者に対する支援や、その支援を展開するうえでの運営上の工夫について意見交換する。

※ 実践報告(以下の1名)を予定しています。

➤ (福)矢吹厚生事業所 わーくる矢吹 施設長 小林 香 氏

第2分科会:雇用事業部会

〔テーマ〕:「このままで良いのかA型事業～A型事業における多様な課題を考える～」

〔ポイント〕:

- ・「働き方改革関連法」がおよぼすA型事業所への影響について
- ・「障害者権利条約」をふまえたA型事業所における支援について
- ・最低賃金を保証するための「受注拡大」について

※同分科会ではパネルディスカッションを予定しております。

〔パネリスト〕:

〔働き方改革〕井上 忠幸 氏 ※コーディネーター兼務

(東京都/中野区仲町就労支援事業所・雇用事業部会長)

〔障害者権利条約〕増田 一世 氏

(埼玉県/やどかり情報館・雇用事業部会副部会長)

〔受注拡大〕野々下 哲也 氏

(愛知県/港ワークキャンパス・雇用事業部会幹事)

第3分科会:就労継続支援事業部会

〔テーマ〕:「工賃向上に向けた就労継続支援B型事業所のあるべき姿とは」

〔ポイント〕:

- ・各事業所がどのような経緯で今の事業を選択し、試行錯誤を重ねながら工賃向上につなげてきたのか、今に至るまでの実践報告から、工賃向上につながるヒントを学び、明日からの自分たちの実践に生

かす学びを得る。

※ 四国の事業所からの実践報告を予定しております。

愛媛県（福）聖風会 野菜工房ていずい 施設長 目見田 裕之 氏

高知県（福）小高坂厚生センター こだかさか障害者支援センター 友村 正子 氏

徳島県（福）池田博愛会 セルプ箒蔵 目標工賃達成指導員 佐藤 信也 氏

香川県（福）ラーフ やまもも 施設長 石川 浩久 氏

第4分科会：就労移行支援事業部会

〔テーマ〕：「就労移行支援・定着支援の再点検

～利用者がよりスムーズに就職し、安心して働くために必要なこと～

〔ポイント〕：

就労移行支援事業及び就労定着支援事業の現状や疑問点を共有するとともに、就労移行支援から就労定着支援への支援の流れを再確認し、よりスムーズな支援の流れをつくる事業の活用等について考える。

※ 実践報告(以下の1名)を予定しています。

➤ 千葉県（福）就職するなら明朗アカデミー・成田キャンパス 学長 小澤 啓洋 氏

第5分科会：生産活動・生活介護事業部会

〔テーマ〕：「生活介護事業における生産活動と生活支援の現状と支援のあり方」

〔ポイント〕：

- ・障害が重くても働くことを希望する方や働ける可能性のある方の「はたらく」を支える生産活動と、「くらす」を支える生活支援の現状について共有する。
- ・利用者の障害の重度化に伴って生活支援に対する比重が高まり、生産活動への支援と生活支援のバランスに変化が生じている。生産活動・生活介護事業における今後の支援のあり方について考える。

※ 実践報告(以下の1名)を予定しています。

➤ 大阪府（福）コスモス 総合生活支援センターえると センター長 大下 芳典 氏

第6分科会：くらす検討会

〔テーマ〕：「働くを支える“くらす”の場における支援のあり方について考える」

〔ポイント〕

- グループホーム、施設入所支援、福祉ホーム等の住まいの場において、就労系事業所で日中 活動されている方、一般就労されている方を支援するうえでの課題や工夫について
- 世話人、生活支援員等のくらすの場に従事する職員に求められる資質や知識・技能について

※ 実践報告を予定しています。

➤ （福）愛育会 愛育会地域生活総合支援センター 内田 良子 氏

➤ （福）やまびこ会 Doやまびこ 施設長 藤田 泰輝 氏

➤ （福）福角会 のぞみホームズ

令和元年度 全国社会就労センター総合研究大会(徳島大会)開催概要

○日 程:2019年7月4日(木)～5日(金)[2日間]

○会 場:JRホテルクレメント徳島(徳島市寺島本町西1-61)

○テーマ:「利用者の地域生活を支える社会就労センターのあり方
～多様化するニーズに社会就労センターとしてどう応えるか～」

○参加費:15,000円(会員)、38,000円(会員外)

○プログラム(予定)

【第1日目(7月4日(木))10:30～18:00】

・開会式、永年勤続表彰式

・行政説明「障害保健福祉施策の動向について」

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課

・基調報告「障害者就労支援の現状・課題とセルフ協の対応」

全国社会就労センター協議会 会長 阿由葉 寛

・分科会Ⅰ:事業種別部会等

①生保・社会事業部会

「生保・社会事業授産施設の利用者像～多様な利用者の利益の最優先～」

②雇用事業部会

「このままで良いのかA型事業～A型事業における多様な課題を考える～」

③就労継続支援事業部会

「工賃向上に向けた就労継続支援B型事業所の挑戦」(仮題)

④就労移行支援事業部会

「就労移行支援・定着支援の再点検

～利用者がよりスムーズに就職し、安心して働くために必要なこと～」

⑤生産活動・生活介護事業部会

「生活介護事業における生産活動と生活支援の現状と支援のあり方」

⑥くらす検討会

「働くを支える“くらす”の場における支援のあり方について考える」

・分科会Ⅱ:課題別に実施する分科会(企画運営:調査・研究・研修委員会)

① 障害当事者から学ぶ～「働く」ために必要なこと～

② 地域特性を活かした施設外就労の新しいカタチ

～農福・林福連携をキーワードに～

③ 多角的経営視点～ニッチ市場を切り拓く～

④ 新時代の人材確保～多様な「働き方」と外国人労働者の活用～

⑤ 地域における事業所の役割～地域から求められる施設を目指して～

⑥ 制度の壁に立ち向かえ！～社会就労センターの未来のために～

※分科会Ⅱ-⑥は、若手・中堅職員を対象とする分科会です。

※一日目のプログラム終了後、情報交換会(希望者のみ)を設けています(18:30～20:00)

【第2日(7月5日(金)9:00～12:10)】

・講 義 「福祉現場こそ ICT 技術を活用しよう」(仮題)

〔講師〕:中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 井村 保 氏

・特別講演 「SLOW LABEL が創造する未来」

特定非営利活動法人スローレーベル 理事長 栗栖 良依 氏

(東京 2020 総合チーム クリエイティブ・ディレクター)

・閉会式